



vol.62 2023

グループホーム こんぴら

行事報告

サンライズ こんぴら

行事報告

利口げな話

特集:「へえ〜っ、そうなんだ!?
〜昔の人はすごい!!〜」 第56回

編集後記

関連機関



特集

へえ〜っ、そうなんだ!?
〜昔の人はすごい!!〜

第56回



! 食後のお茶は歯磨き効果

普段何気なく飲んでいる食後のお茶。口の中がさっぱりしますがここにも先人の知恵が隠されていました。緑茶のカテキンには殺菌作用が、フラボノイドには消臭効果があります。これらの働きが、歯磨きのような効果を与えてくれるそう。食後にお茶でうがいするのはちょっとお行儀が悪いようですがやって正解◎なのです。



*昔から、「おばあちゃんの知恵」といわれているものは、長年の経験に基づいた先人たちの知恵の凝縮です。わたしたちも入居者の皆様から、たくさんの「へえ〜っ、そうなんだ!? 知らなかった〜! 昔の人はすごいなあ〜」と、実感できるアイデアを日々、教わっています。

(参考文献:宝島社 おばあちゃんの知恵袋 決定版 生活のコツ700 編集/佐藤倫子)

編集後記

日中の暑さが和らいできましたが、秋にも熱中症は潜んでいるそうです。熱中症にならない為にも、こまめに水分補給をして体調を整えていきましょう。又、秋は過ごしやすく色々なことに打ち込める時期です。スポーツの秋、芸術の秋など身近なところから始めてみてはいかがでしょうか?

グループホーム こんぴら・サンライズ こんぴら 広報誌「こんぴらだより」第62号
発行元: グループホーム こんぴら・サンライズ こんぴら 編集者: こんぴらだより発行部
住所: 〒766-0002 仲多度郡琴平町167 TEL:0877-73-0811 FAX:0877-73-0812
ホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/> (永生病院のホームページよりお進みください)
eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
発行年月日: 令和5年10月15日



支援医療機関 介護保険事業所



永生病院
〒769-0311
仲多度郡まんのう町買田221-3
Tel 0877-73-3300



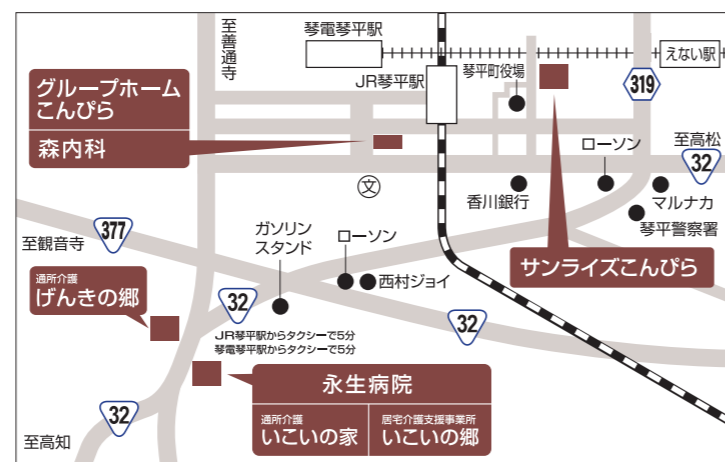
森内科 (グループホーム こんぴら)
建物の1階
〒766-0002 仲多度郡琴平町167
Tel 0877-73-4188

グループホーム こんぴら
Tel 0877-73-0811



サンライズ こんぴら
(小規模多機能型居宅介護)
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1
Tel 0877-58-8600

- いこいの郷 (居宅介護支援事業所) Tel 0877-73-3655
- いこいの家 (通所介護) Tel 0877-73-3718
- げんきの郷 (通所介護) 〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811



グループホームこんぴら Group Home Konpira

●基本理念

家庭的温かさ・個人の尊厳を大切に、豊かな生きがいのある共同生活が送られるよう、家族の一員としての介護支援を行います

●基本方針

- 1.家庭的で安全な療養環境を提供します
- 2.24時間家族の一員がそばにいる安心感がもてるよう介護支援を行います
- 3.自分らしさを尊重した生活が送られるよう入居者の健康増進を図り個別性のある介護支援を行います

～お祭り気分の交流会～

毎月恒例の2階・3階入居者様の交流会を開催しました。今回は季節感を味わえるよう夏祭りの演出で金魚すくい大会を行いました。金だらいにおもちゃの金魚やアヒルを浮かべて、1分間でどれだけすくえるかのタイムトライアルです。勢いよく水しぶきを上げて奮闘する方や、アヒルには目もくれず金魚だけをすくう方など楽しみ方も様々でしたが、童心に帰って歓声を上げていました。その後、手作りの桃シロップをかけたかき氷を皆でいただき、和やかな雰囲気の中でお開きとなりました。これからも季節を感じていただけるイベントを開催していきたいと思ひます。



～面会について～

新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行したことに伴い、グループホームこんぴらでも面会方法が変更になりました。以前は玄関ドア越しでの面会でしたが、現在は玄関の外で直接顔を合わせての面会を行っています。久々にご家族様と顔を合わせ、手を握ったり隣に並んで写真を撮ったりすることができ、入居者様・ご家族様共にとっても喜ばれています。引き続き感染対策を徹底しながら、入居者様とご家族様が交流できるよう工夫していきたいと思ひます。



サンライズこんぴら Sunrise Konpira

●基本理念

住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けられるよう、在宅生活の支援を行います

●基本方針

- 1.通い泊まり・訪問のサービスを、随時組み合わせ合わせた介護支援を行います
- 2.地域の中での関係を大切に継続するとともに、個性を尊重した支援を行います
- 3.365日24時間切れ目のない安心した在宅生活が送れるような支援を目指します

～旬の食材を使ったおやつ作り～

サンライズこんぴらでは、手作りしたおやつを提供する日を設けており、旬の食材を使って、利用者様に季節を感じて頂けるおやつ作りをしています。今回は、利用者様にも火おこしを手伝っていただき、焼き芋や焼きナス作りをしました。「久しぶりに焼き芋を食べた」「焼きナスは、さっぱりして美味しいわ」と、大変好評でした。これからも昔食べていた懐かしい料理や、旬の食材で食べたいものを教えていただき、一緒におやつ作りをしていきたいと思ひます。



～園芸活動～

園芸活動として、野菜作りや花を植えたりしています。利用者様にも声をかけ、種まきや苗を植える作業を手伝っていただいています。その後の水やりも一緒に行い、野菜や花が育っていくのを楽しみにしています。野菜作りや花を育てる事が趣味の利用者様も多く、様々なアドバイスをしてくれます。今はマリーゴールドや百日草、ペゴニアなどが夏からずっと咲き続けています。今後も利用者様が楽しんでいただけるよう工夫していきたいと思ひます。



利口げな話

第35回 ～パーソン・センタード・ケアとは～

認知症の人を「何もできない人」と決めつけることなく、1人の人間として尊重し、その本人の立場に立って行うケアを「パーソン・センタード・ケア」といいます。パーソン・センタード・ケアが目指すのは、「その人らしさを維持すること」です。

認知症の方の5つの心理的ニーズ

●くつろぐこと

他者や社会との関わりを通じて心理的にリラックスできる状態にあることで、真のくつろぎを感じられるでしょう。不安を感じて落ち着きがない、または強い怒りを表現していたら、不安や不快をなくしてくつろぎたいと思っているかもしれません。

【パーソンセンタードケアとは？】



認知症の方が持つ5つの心理的ニーズを理解する

●自分が自分であること

他者と比較することなく、過去の経験や出来事がある今の自分が存在していると認識することが大切です。認知症の人は、記憶が断片的なため過去の自分と今の自分がつながらず、自分が自分である感覚が失われやすいです。自分が自分である感覚が失われるということは、自分自身の存在が薄れていくことにつながりかねません。生きる気力が失われることにもつながるため、常に意識したい心理的ニーズの1つです。

●他者と結びつくこと

他者や社会と関わり合い、支え合いながら生きています。認知症の人は、この結びつきを私たち以上に必要としている可能性があります。脳の障害のせいで自分が自分でなくなる、また、周囲との結びつきが薄れると、なじみのある人や物にこだわりを持ちます。

●たずさわること

人のために何かをしたい、という思いから現れる行動を一方向的に制止されると悲しくなります。一方向的に制止することなく、「何か力になりたいんだな」と理解してから関わるのが大切です。

●共生すること

社会から切り離されることなく、他者や社会とつながりを持って共生するというニーズです。「認知症の人は何もわかっていない」という周囲の思い込みから、このニーズが満たされていないことがあり得ます。嘘をついたりごまかしたりすることは、認知症の人が社会で共生したいというニーズを無視し、深く傷つけてしまう可能性もあります。家族や周囲の人は、認知症の人を1人の人間であると認識した上で共生していくことが大切です。

(参考HP: <https://kaigo.homes.co.jp/manual/dementia/care/pcc/>)